

青少年教育・体験活動ボランティア養成研修

1日目：令和4年5月21日(土) 2日目：令和4年5月22日(日)

【目的】

青少年教育の体験活動を支援するボランティアに求められる知識や技能を習得し、当自然の家におけるボランティア活動の充実を図る。

【参加者】 35名（男子6名、女子29名）

【プログラムの内容】

1回目 日帰り

- 9:15 開講式
- 9:30 ボランティア活動における安全管理
- 13:30 ボランティア活動の意義
- 15:10 ボランティア活動の技術～緊張のほぐし方～
- 16:20 先輩ボランティアによる活動紹介
- 17:20 インフォメーション

2回目 オンライン

- 9:00 インフォメーション
- 9:05 ボランティア活動の技術①
- 10:40 青少年教育や体験活動について知ろう
- 13:10 国立山口徳地青少年自然の家のことを知ろう
- 14:20 ボランティア活動の技術②
- 16:05 法人ボランティア登録と今後について
- 17:15 閉講式

「ボランティア活動における安全管理」

講師：山口市消防本部中央消防署徳地出張所 指導員5名



子どもの傷病者に対して自分が何をすべきなのか、CPRとAEDによる一次救命措置の手順や方法について実技を通して学んだ。実際の119番通報も体験し、もしもの傷病発生時に備え、真剣に受講する姿が見られた。

「ボランティア活動の意義」

講師：山口市社会福祉協議会 佐内郁香氏



市内で実際に行われている多様なボランティア活動の紹介を聞きながら、その意義について学んだ。また、ボランティア活動の現状や課題についても話を聞き、活動するための心構えについて学んだ。

「先輩ボランティアによる活動紹介」

講師：先輩ボランティア



先輩ボランティアからボランティアを始めたきっかけや、活動の楽しさについて、実際の活動の写真をしながら話を聞いた。また、ビデオメッセージによる先輩たちの想いを聞き、実際の活動に向けて参加意欲を高めた。

「ボランティア活動の技術」

講師：国立山口徳地青少年自然の家 職員4名



アイスブレイクによる緊張のほぐし方について体験を通して学んだ。また、危険予知訓練(KYT)をグループで行い、参加者同士で意見交換をしながら、安心安全な活動の支援方法について学び合った。

「青少年教育や体験活動について知ろう」

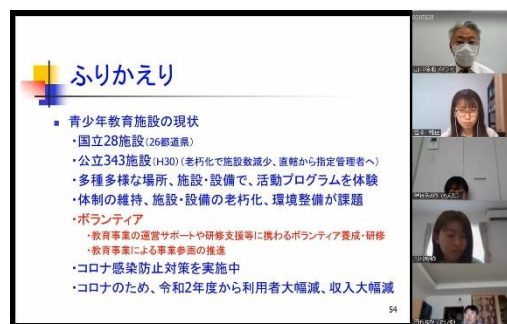
講師：国立山口徳地青少年自然の家 次長 福江大幸



青少年の基本概念から今日の青少年の課題、発達段階に応じた体験活動についての講義を受けた。ボランティアスタッフは「子どもたちの成長を促す意味ある大人として関わることが大切である」と学んだ。

「国立山口徳地青少年自然の家のことを知ろう」

講師：国立山口徳地青少年自然の家 所長 平田博教



国立青少年教育施設とはどんな施設なのか、教育機能や役割について説明を受けた。当自然の家の使命と目標、その達成のための具体的な取り組み等についての話を聞き、ボランティア活動で関わる施設についての理解を深めた。

【参加者の声】

- ・参加前は、「慣れない大学生活ですごく疲れているのに、研修で土日長時間拘束されることに少し辛い」と感じていたのですが、実際に参加してみて、沢山のひとと会って話をし、講義を聞いて実際に体験して、とても充実した2日間でした。不安があったボランティア活動も、研修を通して参加したいと強く思いました。
- ・緊張していましたが、この2日で少し自信ができました。子どもとの接し方や緊張のほぐし方、万が一の時の対処方法や危険の予測など多くのことを学ぶことができたので、あとは実践していきたいと思います。
- ・初めはなんとなく参加しただけでしたが、他の大学の人とも交流でき、色々な考え方に触れられ、またボランティアについても深く学べたので本当に来て良かったなと思いました。

【成果】

アンケート結果について、満足度4（最上位評価）が約7割、満足度3が約3割であった。急遽の途中欠席等があったものの、修了者からは概ね法人ボランティア登録をしてもらうことができた。参加者アンケートの自由記述欄では、ボランティアに関する知識や技術が向上したことに対する喜びの声や、ボランティアへ参加することに対して前向きな感想等が多く見られ、ボランティア活動に参加する機運の高まりを感じた。

【課題】

従来は1泊2日で事業を実施していたが、今回は新型コロナウイルス感染症の流行を受け、日帰りとオンラインの二日間に分けて実施した。その影響もあり、1日目は参加したが2日目は欠席するケースや、オンライン講義にて参加者のネット回線の不具合で正常に参加できないケース等が生じた。コロナ禍での事業の運営方法については、職員の運営スキルの向上も含め、検討や改善を図っていく必要がある。